

清水じゅんこ 長野県議会だより

新ながの・公明
発行責任者 村上 淳

長野県庁
長野市大字南長野字幅下 692-2
☎026-232-0111 (県庁代表)

ごあいさつ

皆様の温かなご支援により、2期目もおり返しを迎えようとしています。本年も、原点を忘れず、常に現場に身を置いて、共に悩み、現場の真只中から政策を提案して参ります。

引き続き、力強いご支援を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



“脳脊髄液減少症”を知っていますか？

交通事故をはじめ、転倒や、スポーツ外傷など、体に強い衝撃を受けたことなどが原因で、髄液が漏れて減少するため、大脳や小脳が下がり、脳の機能が低下する疾患です。特に、子ども（15歳未満）の早期発見での改善率は9割と言われています。



原因

転倒事故▶廊下で転倒・しりもち
落下事故▶鉄棒、組体操から落下
部活動中▶野球のバット・ボールが頭に当たった
サッカー・バスケットで激突
交通事故▶追突、接触事故

症状

様々な痛みが出ることが大きな特徴
頭痛・視力低下・回転性めまい
動揺感・腰痛・しびれ・背部の痛み
倦怠感・腹痛・息苦しさ・思考力低下・
うつ症状 など



予防

早期発見・早期治療が大事！
できれば、2週間程度安静に！
水分を多めに取ることで、
髄液の漏れ部分が自然にふさがることが期待でき、重症化につながります



治療法

ブラットパッチ療法
(平成28年4月より保険適用)
現段階で、髄液の漏れをふさぐ
効果的な治療法です

脳脊髄液減少症の診療が可能な県内病院について

【長野県ホームページ】 ホーム > 健康・福祉 > 医療 > 保健・医療制度 > 脳脊髄液減少症について
【問い合わせ】 健康福祉部 医療推進課 ☎ 026-235-7145

1 里親委託の推進について

Q1 長野県の現状について伺います。

【県民文化部長】

A1

平成27年度に一時保護された児童の数は296名で、その後の状況につきましては、自宅に戻った児童が186名、施設入所した児童が73名、里

親へ委託された児童が14名、その他が23名となっています。平成27年度末現在で、里親に委託されている児童は合計54名です。

Q2

里親に対するケア提供者としての学びの実践として、イギリスで専門チームで開発されたフォスタリングチェンジ・プログラムの実施について所見を伺う。

A2

【県民文化部長】

里親を支援する研修の必要性は十分認識しております。ご指摘のフォスタリングチェンジ・プログラムにつきましては、子どもとの良好な関係作りや、子どもとの

生活の中で生じる養育者自身のストレスの軽減につながるといった評価が示されていると承知をしております。人材養成の観点から研究を進めてまいりたい。

Q3

多様な機関から構成されるネットワークでの支援体制を構築すべきと思うが、所見を伺う。

A3

【県民文化部長】

里親会や児童養護施設等により構成し、全権的な里親制度の広報啓発活動や里親委託への支援について検討をする里親委託推進委員会を本年設置したところです。

今後は、他県におけるNPO法人や臨床心理士会等との連携等も参考にいたしまして、里親委託の推進、里親支援のあり方について、本委員会で十分検討してまいりたい。

Q4

様々な支援体制の下での新たな里親支援システムの構築が急がれるが、里親委託推進に向けての所見を伺う。

A4

【知事】

今年度から、児童相談所の体制強化の観点で、児童相談所広域支援センターを設置しました。また、今般、児童福祉法が改正されたことを踏まえて、児童福祉司の増員を検討してまいります。里親と児童とのマッチングにも積極的に取り組んでいきたい。産科医療機関等との協議の場の構築についてです

が、産科医療機関、あるいは里親会等とも連携した協議会を年内を目途に設置をする予定にしております。

できる限り家庭的な養育環境の下で子どもたちが健やかに育っていただくことができるように、里親委託の推進については、県としても今後とも力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

2 食品ロス削減の推進について

Q5

日本の食糧自給率は約4割にとどまる一方、食べられるのに捨てられる食品ロスは年間632万トンと推計されており、その削減が喫緊の課題であります。消費期限がせまった食品を生活困窮者へと提供するNPOの活動や、宴会での自席での食事を楽しむ時間を決める3010運動など、松本の取り組みが注目を集めております。未利用食品を必要とする人に届ける仕組みを確立し、そしてフードバンク等が安定的に運営をされるよう県としてしっかりと支援をすることが必要と考えるがいかがか。

A5

【健康福祉部長】

本県では、生活困窮者を支援する生活・就労支援センター“まいさぼ”と、フードバンクを行っている社会福祉法人長野市社会事業協会が協働して食糧支援を行う体制が、平成27年度に構築されています。

こういったフードバンクの活動について、多くの方に知っていただき、食料提供や事業費の寄付など支援の輪が広がっていくことが望ましく、県としても広報等により活動しやすい環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

質問要旨

Q6

学校給食や食育・環境教育などを通して、食品ロス削減のための啓発をさらに、進めるべきと考えるが所見を伺う。

A6

【教育部長】

教育委員会では環境部と協力、連携しまして小学校低学年向けに、「食べ残しはもったいない」をテーマとした学習教材を作成し、各小学校に配布するとともに、ホームページに掲載して小学校以

外でも活用できるようにしたところです。今年度は高学年を対象に「食品ロス削減」について、教科や給食指導の時間に取り組むための教材を現在作成中で、これらの教材を活用し一層啓発を進めて参りたいと考えています。

3 脳脊髄液減少症について

Q7

本年4月に脳脊髄液減少症の治療に有効なブラットパッチ療法の保険適用が開始されたが、県内の実績を伺う。また、再度診療可能な病院の実態調査が必要ではないか。

A7

【健康福祉部長】

本年度実施を予定しております医療機関に対する実態調査において、脳脊髄液減少症の診療やブラットパッチ治療の実績を把握してまいりま

す。実態調査にあたっては、ご指摘の点も踏まえ、検査の実施内容などの現状をより詳細に把握するよう努め、その結果を公表してまいります。

Q8

脳脊髄液減少症の周知の徹底に関し、スポーツ指導者への情報提供について伺う。

A8

【教育長】

学校に対して調査や研修会を実施してきておりまして、今年度も運動部の顧問などの教職員に対し、体育主任会等を通して周知を図るとともに、年度当初の校長会や6月に開催した養護教諭を対象と

する研修会等においても関係資料を配布するなどして周知に努めています。さらに、地域のスポーツ指導者に対しましては、「頭頸部外傷に関する研修会」におきまして脳脊髄液減少症についての情報提供も行い、広く周知してまいります。

Q9

認定NPO法人脳脊髄液減少症患者・家族支援協会が作成したホームページには、この病気に関する症状、診断、治療等について詳しい説明がされている。長野県でもバナーが貼付を求めると共に、関係機関や不登校の児童生徒へ周知を図るため、脳脊髄液減少症の病状、診断、治療等を詳しく伝えるリーフレットを作成し、配布することを望むがいかがか。

A9

【健康福祉部長】

県のホームページに、認定NPO法人脳脊髄液減少症患者・家族支援協会が作成したホームページをリンクさせることについては、速やかに対応させていただきます。リーフレットの作成・配布につきましては、脳脊髄液

減少症に関係する団体が作成しているわかりやすいリーフレットを活用し、消防長会や警察学校での研修会などを通じた関係者への説明や、教育委員会と連携した不登校など必要な児童生徒への周知に努めてまいります。

4 インフラツーリズムについて

Q10

インフラツーリズムとは、公共施設すなわちインフラや土木景観を観光資源として位置づけることを指しますが、国土交通省でも積極的な利用を推奨しており、政府が推進をする訪日外国人旅行増加の手段の一つとしても位置づけをされています。知事は長野県の政策を観光という観点から総合的に部局横断で行っていく必要があると言っている。今ある当たり前と思われるものに、付加価値を見出し、あらゆる手段で長野県の魅力を発信するため、インフラツーリズムという観点を観光戦略の一つに取り入れることについて、所見を伺う。

A10

【知事】

インフラに着目した観光の取り組みは、少しずつ取り組んできています。県の職員の政策研究チームの中でも土木遺産をもっと観光に使っていく必要があるのではないかと提案もあり、インフラの話は私どもの強みを正に発揮できる分野であろうと考えております。

「観光戦略推進本部」を設置して建設部も含めて観光施策を進めていると考えていますので、そうした中にこのインフラツーリズムの話もしっかりと位置づけて、単にインフラを検討して使うだけでなく、線的、面的に活用していく方向で取り組みを考えていきたいと考えております。

主な活動の報告

知事要望 (H29年度当初予算)



県民の期待に応え、全庁をあげて「信州創生」にむけた情熱ある取組を強く要望しました。(86項目)

地元企業訪問調査活動



書籍、DVDの買い取り販売を行う
(株) バリューブックスさんへ

委員会視察

奈良県・大阪府へ
奈良県立 朱雀高校
大阪府立 中央聴覚支援学校 他



県内中南信 地域
高遠ダム (伊那市)
松本深志高校
茅野市 教育委員 他

会派視察



千葉県
いすみ鉄道
松山下公園総合体育館 (クライミング施設)
ロッキー印西

新潟県
かしわざき市民活動センター
長岡市 アオーレ長岡
子育ての駅「ぐんぐん」 他



お気軽に、直接お問い合わせください。

連絡先

所在地 ▶ 〒386-1102 上田市上田原707-3 クラエンタービル104号

☎ ▶ 0268-75-7279 F A X ▶ 0268-75-7706

e-mail ▶ shimizu.jyunko@orange.plala.or.jp

